都市と美術研究所・1 月 22 日研究会発表概要

「ソウルの社会文化的空間とその表象に関する研究
—小説『布衣交集』（19 世紀）、『川辺の風景』（1930 年代）、『ソウル 1964 年冬』（1960 年代）を中心に—」

イ・ドフム（漢陽大学人文大学校教授）

ソウルは急速な近代化で中世、近世、脱近代が重層的に結合した東洋式メトロポリスの典型である。本発表では、これが表象された様相を『布衣交集』、 朴泰遠の『川辺風景』、金承鈺の 『ソウル 1964 年冬』を中心に筆者のマダン理論で分析する。

『布衣交集』が再現した時代は 19 世紀、封建社会の解体時期である。政府の主導による書堂を中心とした教育体系、家庭と社会を支配する儒教的な倫理制度、そして他者の諸視線が権力として作用した。『布衣交集』の主人公、楚玉と李生は平民と貴族（両班）という身分差、人妻と妻帯者という倫理的秩序から離れ自由な愛を追及する。ここではソウルは二つの主体が自由な愛を享受するマダンである一方、田舎は李生が妻と家族の秩序に戻るマダンとして表象される。楚玉と李生による両者の愛は終焉を告げる。

『川辺の風景』が表象したのは、日本による植民地化と近代化の資本主義が進んだ 1930 年代である。日本の資本主義的権力と儒教的な道徳観、近代的な道徳観が混在した共同体の諸視線があるなか、ジェンダーと身分が最も強力な要素としてある。ソウルはまだ共同体と家父長的秩序を保っていたものの、植民地化による資本主義が日常にまで浸透し、個人の疎外が深まった空間でもあった。清渓川と貫鉄洞はこのようなソウルの空間的な特質を共有しながらも相対的に対立する。清渓川の川辺は貧しいが共同体的なつながりが残り、互いに対話し相互扶助するマダンである一方、貫鉄洞は裕福ながら資本主義と家父長的な矛盾に埋もれ、金に愛を売り、男性が女性を他者化して排除し、暴力を振るマダンである。

『ソウル 1964 年冬』が表象した時代は軍事独裁政権によって物質中心の急速な近代化と資本主義化が進み、4.19 革命のビジョンと自由が封鎖された 1960 年代である。主な権力は軍事独裁政権と彼らと癒着関係を結んだ資本であり、軍部、教育官僚、御用知識人、保守メディアのカルテルがみられる。ソウルには資本主義による都市の特質である均質化、断片化、位階化が本格的に現れる。ソウルは資本主義の矛盾が深まり疎外化が進み、皆が断絶された孤独なマダンとなる。この文脈において主人公が求めたのは、疎外されない愛だが、夫と妻の体にはすでに疎外が内面化されている。夫は疎外を克服するためにソウル郊外で愛を交わすが、最後は妻の死をもって、空間に抵抗できなくなり自殺を選ぶ。

【発表者プロフィール】

イ・ドフム

漢陽大学国語国文学科教授、 正義平和仏教連帯常任代表(2014-現在)、 韓国言語文化学会会長(2019-現在)、 知識循環協同組合 代案大学理事長(2014-現在)。

歴任: 韓国記号学会会長(2017-2018)、 季刊〈仏教評論〉編集委員長(2016-2017)、韓国学研究所所長(2005-2008)、 季刊〈文學과 境界〉主幹(2002-2005)、 民主化를 爲한 全国教授協議会 常任議長(2011-2013)

ㅇ 代表著書: 『和諍記號學의 理論과 實際-和諍思想을 通한 形式主義와 마르크시즘의 綜合』、『新羅人의 마음으로 三國遺事를 읽는다』、 『神話/脫神話와 우리』、『人類의 危機에 대한 元曉와 마르크스의 對話』 等。

ㅇ 受賞: '21 世紀 中央論文賞'(1985) 優秀賞、 '教授新聞 教授學術 에세이' 最優秀賞(2002)、 元曉 學術賞(2016)、 唯心學術賞(2016)。